

2010年9月期連結決算

2010年11月8日

株式会社三菱総合研究所

東京証券取引所市場第一部指定のご報告

当社株式は、2010年9月29日をもちまして、東京証券取引所市場第一部銘柄となりました。

今般の市場第一部銘柄への指定に際し、株主の皆様をはじめ、関係者各位の日頃の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

今後も皆様方のご期待にお応えすべく、企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 田中將介

目次

1. 2010年9月期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

1. 2010年9月期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

2010年9月期連結決算ハイライト

(百万円)

	2010年9月期 通期実績	期初計画比		前期比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	73,323	△1,677	△2.2%	△158	△0.2%
シンクタンク・コンサルティング事業	20,222	522	2.7%	△251	△1.2%
ITソリューション事業	53,101	△2,198	△4.0%	92	0.2%
営業利益	4,875	△614	△11.2%	△569	△10.5%
営業利益率	6.6%	△0.7P		△0.8P	
経常利益	5,030	△589	△10.5%	△542	△9.7%
当期純利益	2,516	△483	△16.1%	△462	△15.5%
1株当たり当期純利益(円)*	153.22	△29.44	△16.1%	△39.26	△20.4%

* 1株当たり当期純利益は期中平均株式数により算出：2010年9月期 16,424千株、2009年9月期 15,478千株

2010年9月期決算のまとめ

計画比： 微減収・減益となり期初計画未達

- 第3四半期までは計画通り進捗したものの、想定より市場の回復が遅れたことにより、第4四半期が計画を下回る

前期比： 売上横ばい確保、収益性の低下により減益

- 新規案件： カード会社システムの法改正対応、鉄道業のレベニューマネジメント
- 新規顧客： 施設運営・保守管理サービス事業者の経営管理システム構築
- 既存分野： 官公庁向け調査研究業務・システム最適化支援は堅調に推移
- シンクタンク・コンサルティング事業で景気低迷に伴う民間案件の減少等により収益性低下

受注状況： 前期実績を若干下回るも今後の回復に期待感あり

- 金融機関のシステム開発案件が復調、官公庁からの受注は引き続き堅調
- リーマンショック以来凍結されていた製造業等の一部案件再開
- 停滞していた民間案件の引き合い回復により今後の受注に期待

顧客業種別売上高 <前期比>

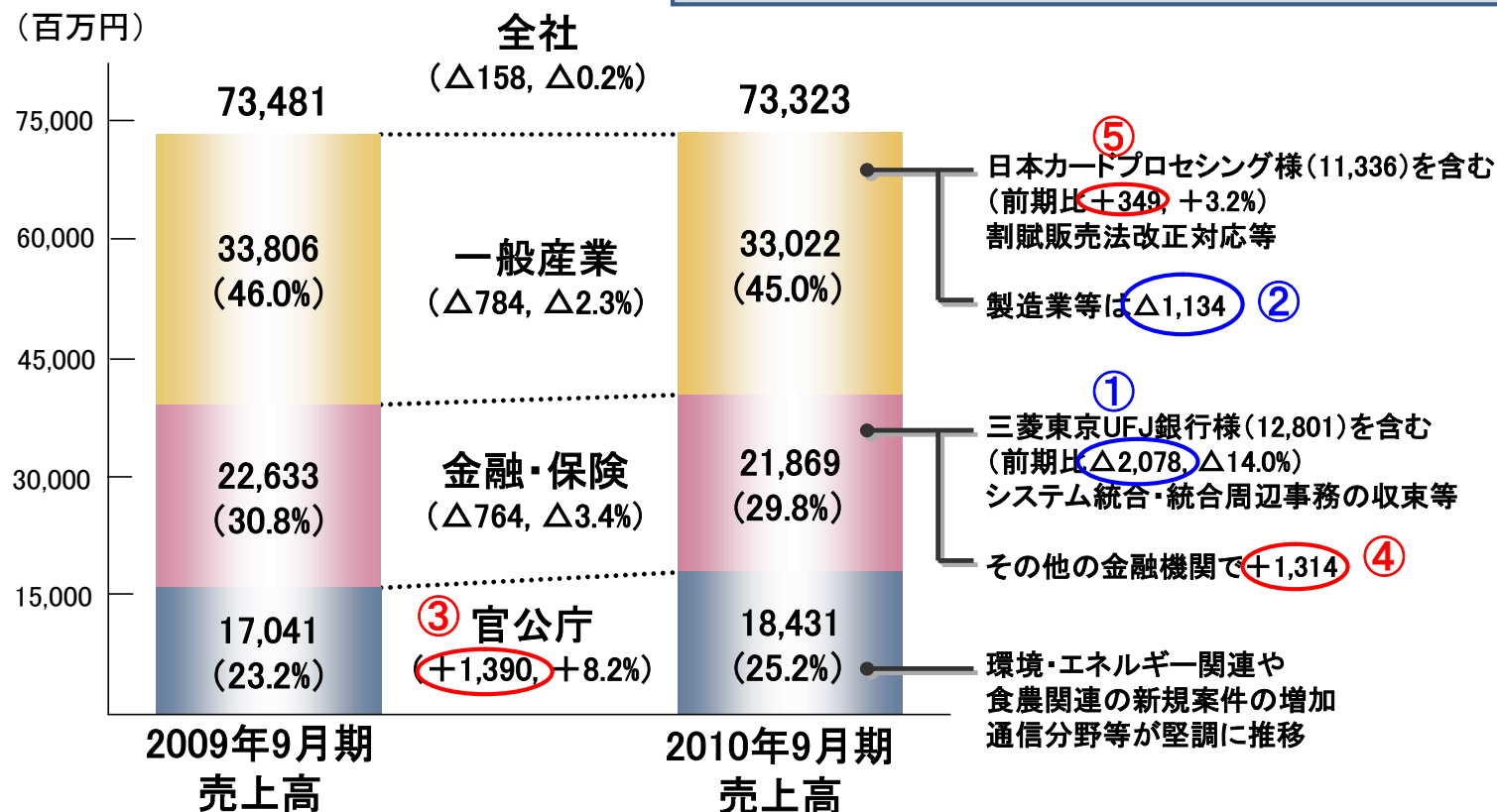
(減収要因)

- ①メガバンクのシステム統合完了
- ②製造業等でのIT投資抑制と
コンサルティング案件発注減

ほぼ帳消し

(増収要因)

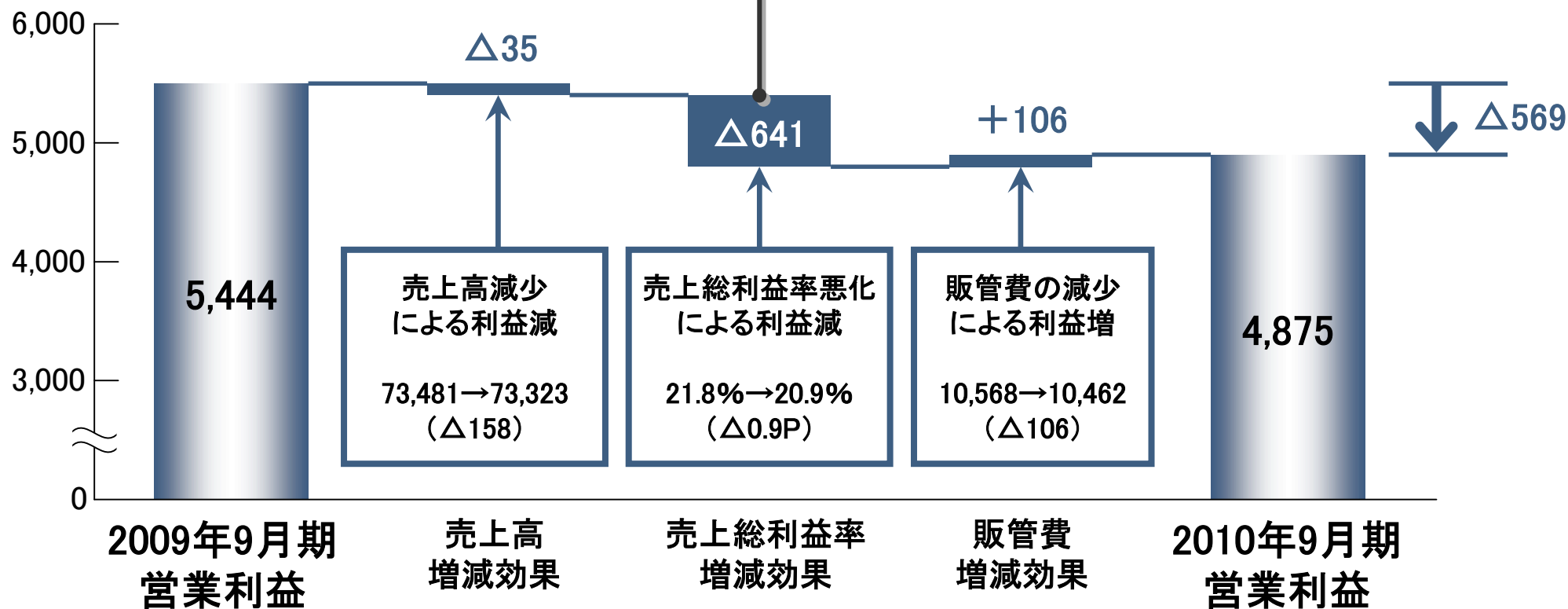
- ③重点政策分野での新規調査研究案件
- ④メガバンク以外の金融機関のシステム案件開拓
- ⑤カード会社システムの法改正対応
- その他、鉄道業・サービス業の新規大型システム案件



営業利益の減少要因 <前期比>

(百万円)

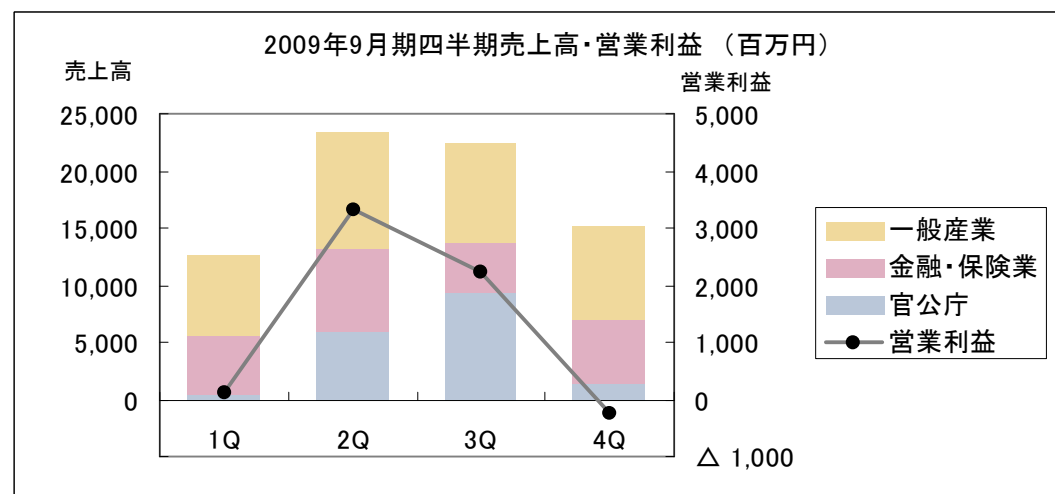
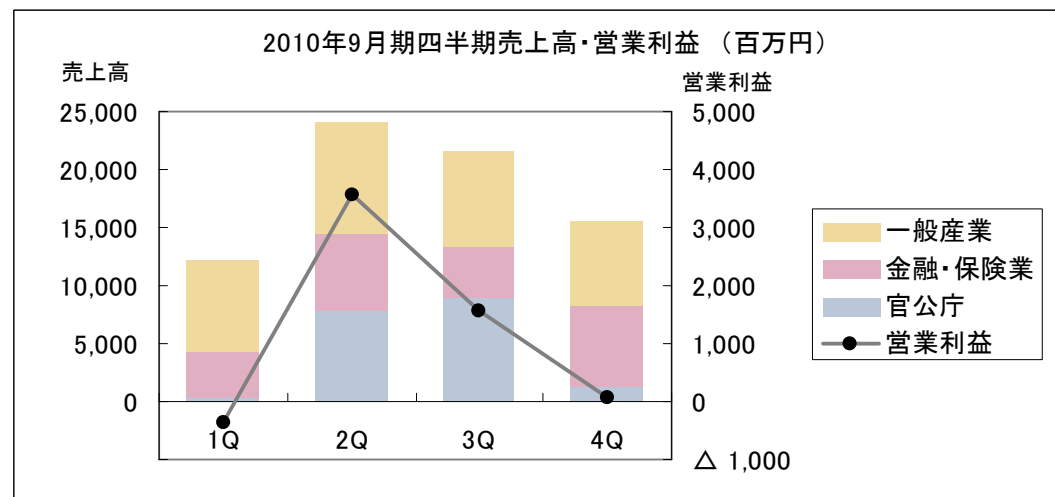
- ✓ 景気低迷に伴う民間案件の減少(民:▲1,548、官:+1,390)
- ✓ 多額の外注費が発生する大型案件の増加(実証実験型の官公庁調査研究案件等)
- ✓ 官公庁市場への参入企業の増加による価格競争の激化



【補足】業績の季節変動について

季節変動の要因

- シンクタンク・コンサルティング事業の主要顧客である官公庁向けの調査研究案件の売上が毎年3月から4月に集中する。
- そのため、売上の多い2Qと3Qの営業利益が1Qと4Qに比べて高くなる傾向がある。
- 特に、2Qは稼働率も高いため、年間を通して最も営業利益が高くなる傾向がある。
- 一方、販管費等の経費は毎四半期ほぼ均等に発生するため、売上高の小さい1Qと4Qは営業赤字となることがあるが、通期累計では黒字となるのが通例である。



1. 2010年9月期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

2011年9月期売上高予想

連結合計で増収、各セグメントでも増収を見込む

各セグメントで6～7割の受注を期首時点で確保済み

(百万円)

	2010年9月期 売上高実績	2011年9月期 売上高予想	増減額	増減率	2010年9月期末 受注残高	対売上高予想 既受注率
シンクタンク・コンサルティング事業	20,222	22,070	1,848	9.1%	13,109	59.4%
ITソリューション事業	53,101	53,130	29	0.1%	36,446	68.6%
合計	73,323	75,200	1,877	2.6%	49,556	65.9%

2011年9月期営業利益予想

本社移転および成長のための先行投資に伴う経費増をカバーした上で、前期比増益を見込む

(百万円)

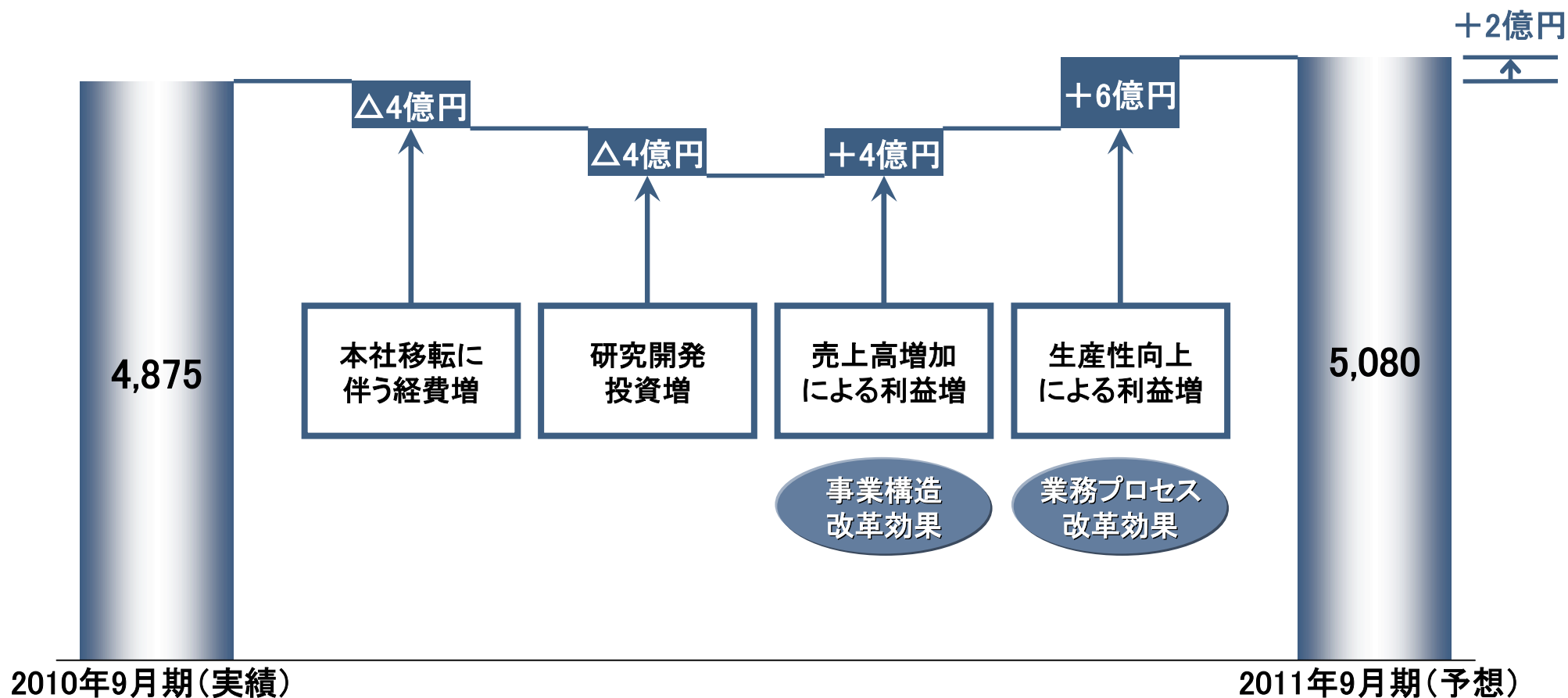
	2010年9月期 実績	2011年9月期 予想	増減額	増減率
売上高	73,323	75,200	1,877	2.6%
営業利益	4,875	5,080	205	4.2%
営業利益率	6.6%	6.8%	0.1P	
経常利益	5,030	5,150	120	2.4%
当期純利益	2,516	2,670	154	6.1%
1株当たり当期純利益(*)	153.22	162.57	9.35	6.1%

*1株当たり当期純利益は期中平均株式数により算出： 2010年9月期 16,424千株、2011年9月期 16,424千株

2011年9月期営業利益の増加要因

2010年9月期実績との比較

(百万円)



中期成長戦略 ①事業構造改革 ～事業・リソースの選択と集中～

	お客様のニーズ	重点事業	先導役
社会	国家的課題の解決 (少子・高齢、環境・エネルギー、経済、 食料・資源、社会インフラ等)	未来社会提言・実現型事業 プラチナ社会、エネルギー戦略、食農、 プラチナエイジング、社会インフラ維持	未来社会提言 プラチナ社会研究会
	政府(国・地方)の効率化	システム最適化支援 自治体クラウド(観光統計等)	中央省庁でのPMO業務実績 クラウドユーザー研究会
金融 機関	【メガバンク】 海外展開、リテール拡大	グローバル対応システム開発 データ預り型マーケティング	メガバンクでの実績・信頼 未来情報解析センター
	【地銀等】 収益力向上、合併	住宅ローン信用リスク管理 コスト削減支援 会社合併後の統合支援	メガバンクでのノウハウ・実績の横展開 成果指向型サービス 地銀での実績の横展開
一般 企業	経営の高度化・効率化	中長期経営環境予測 経営革新一貫型ソリューション (コンサル-ERP-ITアウトソーシング-BPO)	未来情報解析センター 事業予測情報センター グループ内連携(MRI-DCS-MRVS)
	海外市場展開、グローバル経営	インフラ輸出支援、グローバル展開支援 グローバル製造業ERP	鉄道システム輸出 グループ内連携(MRI-DCS-MRVS)
	科学的なマーケティングによる 売上拡大	データ預り型マーケティング データ解析型ソリューション	未来情報解析センター レベニューマネジメント
	業務効率化、コスト削減	BPO(人事給与、事務全般) 病院・学校経営支援ソリューション	PROSRV、ユービーエス オプト・ジャパンとの連携

中期成長戦略 ②業務プロセス改革 ～生産性・品質向上～

提言機能・受注力の強化

- 未来社会提言活動の強化
- 官公庁市場における提案力・価格競争力の強化
- 民間市場における戦略テーマの徹底した横展開
(コスト削減、グローバル経営支援、中長期予測、レベニューマネジメント等)

プロジェクト遂行における生産性・品質の向上

- パートナーとのさらなる協業による顧客価値向上・生産性向上
- 人材の流動的活用による稼働率の向上
- グループSI-PMO機能によるITソリューション事業の収益性向上

コーポレート業務効率化・ワークスタイル改革

- コーポレート機構改革とシェアードサービス化による合理化
- BPRと次期社内情報システムの構築による業務効率化
- 本社移転によるリソース集約を契機とした社内連携の拡大

2011年9月期配当予想

（期末配当は取締役会・株主総会決議事項
中間配当は取締役会決議事項）

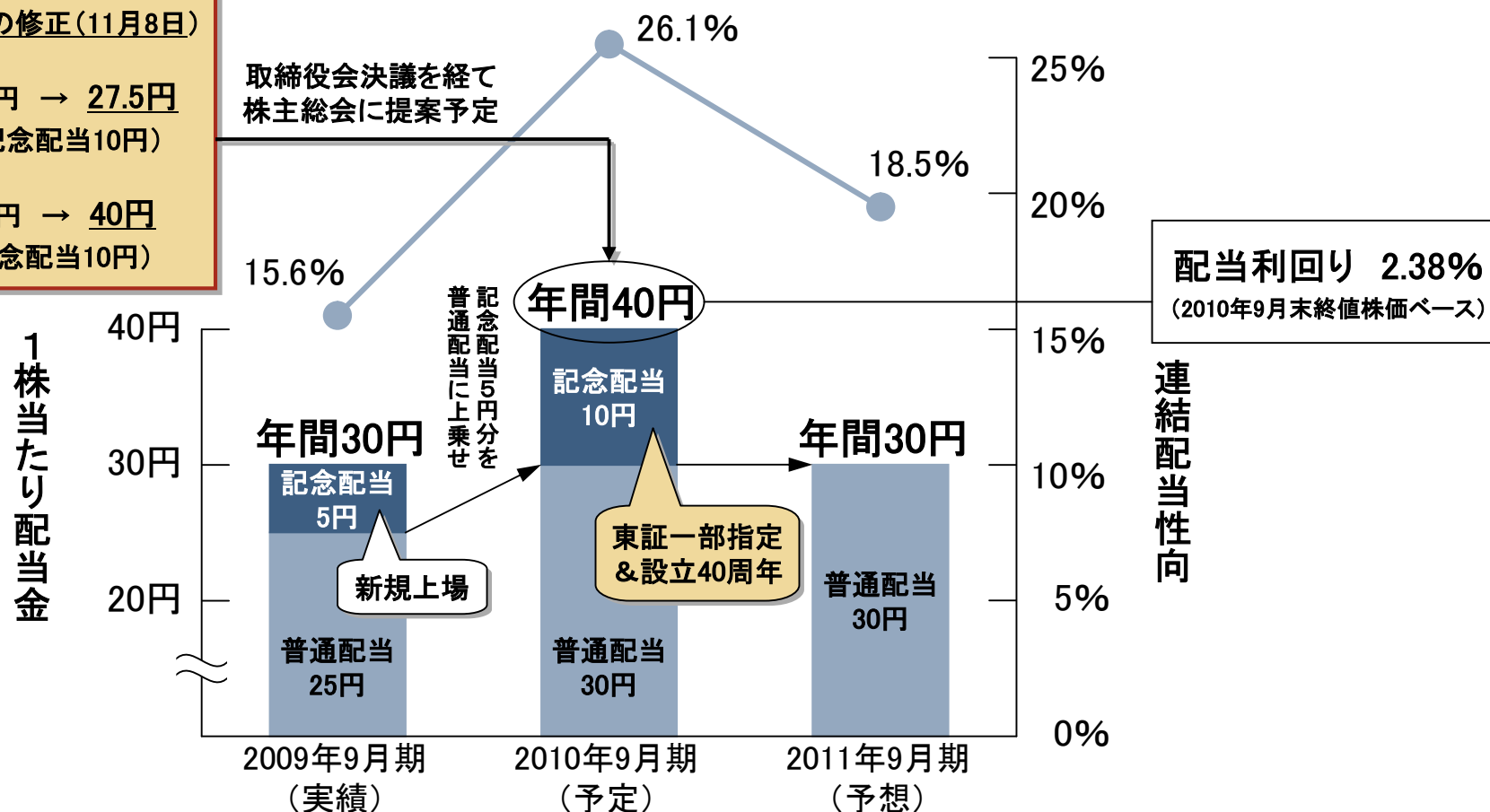
配当方針

連結ベースにおける業績動向、財務状況を総合的に勘案しつつ、必要な内部留保に努めながら、連結配当性向20%～25%に漸次高めていくことを目指し弾力的に決定

2010年9月期配当予想の修正(11月8日)

期末配当予想: 17.5円 → 27.5円
(普通配当17.5円、記念配当10円)

年間配当予想: 30円 → 40円
(普通配当30円、記念配当10円)



1. 2010年9月期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

プロジェクト事例～レベニューマネジメント(収益最適化プログラム)

- 需要に応じた在庫配分と価格調整により、適切な商品を、適切なタイミングで、適切なお客様に、適切な販売チャンネルを通して、適切な価格で販売し、収益を最大化する手法
- 導入評価から保守・運用支援までの一貫したサービス提供は国内先行事例
- 航空・鉄道を含む運輸・レジャーなど幅広い分野に展開中

最新の実績
東日本旅客鉄道株式会社様

MRI

強み

- 1 数理モデルに基づくデータ分析
- 2 シンクタンクとしての業界知識
- 3 システムインテグレーション力・PM力
- 4 継続的なオペレーション支援

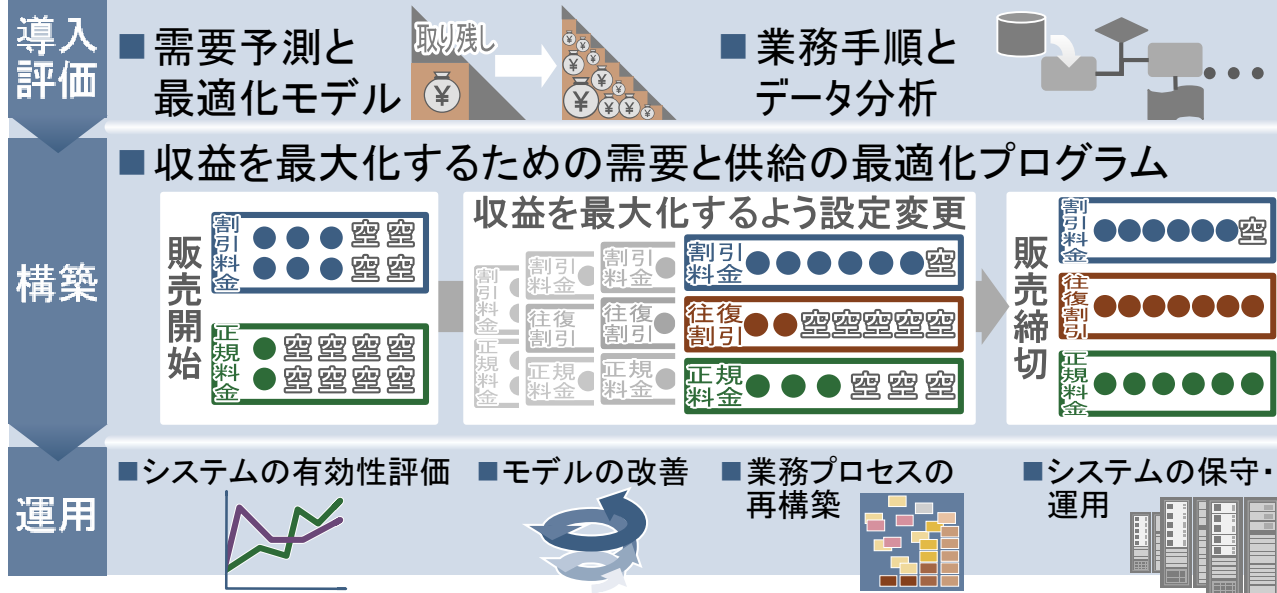
レベニューマネジメントシステム



多業種展開

- 旅客運輸
- 貨物運輸
- レジャー産業
 - ホテル
 - ゴルフ場
 - レンタカー
 - クルージング
- 病院

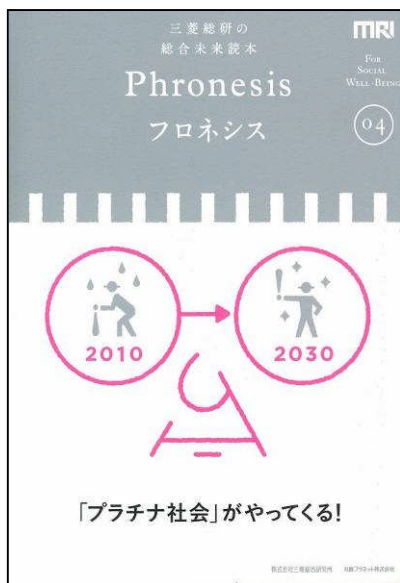
ビジネス展開



1 2 3 4
できるのが最大の優位性

出版物

三菱総研の総合未来読本



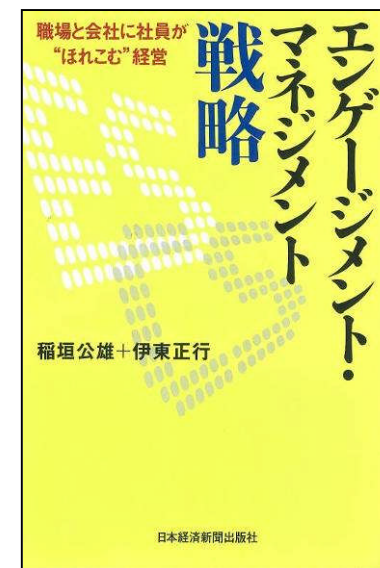
書籍名 『Phronesis』 シリーズ第4弾
 編著者 三菱総合研究所
 発行日 2010年7月10日
 発行 丸善プラネット

書籍名 リスクマネジメントの実践ガイド
 編著 三菱総合研究所
 実践的リスクマネジメント研究会
 発行日 2010年4月
 発行 日本規格協会



書籍名 リスクマネジメント解説と適用ガイド
 著者 リスクマネジメント規格活用検討会
 (野口和彦編集委員長)
 発行日 2010年2月
 発行 日本規格協会

書籍名 リスクマネジメント
 著者 野口 和彦
 日本品質管理学会 監修
 発行日 2009年11月
 発行 日本規格協会



書籍名 『エンゲージメント・マネジメント戦略』
 著者 稲垣 公雄
 (三菱総合研究所 主席研究員)
 伊東 正行
 (三菱東京UFJ銀行 CSR推進部長)
 発行日 2010年4月23日
 発行 日本経済新聞社

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。

株式会社三菱総合研究所 広報・IR部 IR室

TEL : 03-6705-6001
FAX : 03-5157-2171
E-mail : ir-info@mri.co.jp
URL : <http://www.mri.co.jp/>

本社移転に伴い
TEL/FAXが
変わりました